「多世代が住みやすい街へ」

今、昭和の名残は平成という時代や２１世紀という流れの速さに消えつつある。大都市への一極集中化により夫と妻が共働きし、子供は保育園に預け、その結果核家族の増加ということに繋がり、世代や世帯間の溝を深めていった。そんな時代の中において多世代が住み心地のよい街づくりというのは難しいが、できないわけでもなさそうだ。キーワードは[癒し]である。とはいっても頭ごなしに（癒し＝公園を作れ）というわけではなく、ちゃんと用途に合ったものを作らなくてはならない。例えば高齢者と中高年を繋ぐものとしては保養所や健康センターの設置や、地区主催の子供会ならぬ大人会の結成。中高年と私たち青年を繋ぐものとしては、実現はかなり難しいが、相手が社会人ということを生かして私たちを定期的に１日体験入社という形で中高年の方を通して社会に触れる。青年と子供を繋ぐものとしては、青年のボランティア型コミュニケーション。つまりは少年サッカーや少年ドッジボールの青年参加などである。これを行えば、すべてが解決するわけではなく、行ったことで問題が浮上するかもしれない。だが、こういった目上の方との繋がりを持つことで様々な事を考え、各々にあった[癒し]を模索できる環境をつくることが、形では見えないが目には見える住みやすい街づくりの一歩だと思う。